

## 音源の比較試聴(32) —ケルンコンサート—

### 1. 始めに

前報(31)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

### 2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ECM ECM 1064/65

Koln Concert (50th Anniversary Edition)

キース・ジャレット

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

Koln Concert

キース・ジャレット

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

### 3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、ディスコグラフィー【2025No.207】で報告しているとおりで、高音のきらめき、低音の響き、ピアノだけでなくノイズや声までも生演奏のような迫真の演奏であり、打鍵の強弱の加減、有効弦だけでなく共鳴弦の響きまで見えるようなライブ感が再現されています。

STAGE+の配信は、STAGE+を楽しむ(331)で報告しているとおりで、打鍵の強さをコントロールし、その一音一音のニュアンスが手に取るようにわかります。

上記アナログ盤と比較しますと、全体の印象はアナログ盤の印象を受け継いでいま

すが、若干肌理の細かさが後退し、細かいニュアンスが少し欠落します。

#### 4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は、高音のきらめき、低音の響きなど、有効弦だけでなく共鳴弦の響きまで見えるようなライブ感が再現されています。STAGE+の配信は、上記アナログ盤の印象に近似しており、若干肌理の細かさが後退し、細かいニュアンスが少し欠落する程度です。

以上